

建設業

建設産業の今を伝え
未来を考える

しんぶん

Apr.2024
No.557

4

特集

建設事業主等に対する
助成金について

今月の
UP
のCCUS

所属事業者が
変わったときは？

どうしてる建設業!?

～優良企業の成功事例から学ぶ残業規制と働き方改革、人材確保に向けて～

日時 **6/13 THU. 13:30**～(開場 13:00)

会場 **木材会館**
(「新木場」駅より徒歩3分)

2024年4月より残業規制が適用され、大きな転換点を迎えた建設業界。人材の確保・育成をはじめ、働き方改革や生産性向上に積極的に取り組む優良企業の事例紹介と参加者相互の交流会を通じて、皆様の経営改善のお役に立てれば幸いです。是非、ご参加賜りますようお願い申し上げます。

▶ 13:40～14:40 | 働き方改革における優良事例のご紹介

令和5年度 建設人材育成優良企業表彰 国土交通大臣賞受賞企業



講師 細沼 順人氏
成友興業株式会社
代表取締役

バックオフィス強化によって残業削減、DX推進、ICTの活用、4週8休を確保、年次有給休暇取得率を向上。育児時短勤務を中学校入学前までに拡大し、「小1の壁」問題を改善。女性の長期就業を支援。産休・育休からの復職率は100%。女性役員比率43%。若手の採用・定着・教育研修にも力を入れており、建設技術者のうち6割が29歳以下。社長就任以来25年間で売上高20倍という驚異的な成長を続けている。



講師 榎崎 巨氏
伊田テクノス株式会社
代表取締役社長

創業は1910(明治43)年の「100年企業」。近年、担い手の育成と優秀な人材確保を目的に、技術系・文科系出身問わず新入社員に対して、体系的実践的な教育プログラム、企業内職業訓練校「伊田テクノカレッジ」を設置。建設現場の残業時間削減を目的に、バックオフィスを担う建設DX推進部を設置し、建設DX推進による生産性向上と建設ディレクター資格者を積極的に活用した取組を行う。

▶ 14:50～15:20 | 地方建設業におけるBIMの取組事例について



講師 松本 光正氏
佐藤工業株式会社
建築本部建築部
理事部長

佐藤工業(株)は昭和23年創立、75年の歴史をもつ、福島県福島市を中心とした総合建設会社。生産性のさらなる向上を目指すため、地域建設業者の中でいち早く2018年にBIMの利用方針を決定し、導入から約5年が経過。BIMを社内に取り入れるまでの過程から現在のBIMの活用状況や導入後の成果を具体例とともに講演。

▶ 15:20～15:50 | 働き方改革のベタープラクティス 好事例のご紹介と経営状況の解説



講師 高田 守康氏
日本マルチメディア・
イクイップメント株式会社
代表取締役

全国の建設業で「働き方改革」を実現した好事例(ベタープラクティス)が生まれている。例えば、事務職員がリスクリングすることによって現場の技術者の残業を減らした好事例、建設業の技術者と海外の技術者が連携することで処理能力を増強した好事例、若者や女性が生き生きと働けるウェルビーイング経営など、働き方改革の参考になる好事例をご紹介します。あわせて近年の建設業の経営状況について解説。

profile

NECで建設業向けシステム開発に従事。1995年日本マルチメディア・イクイップメント株式会社を創業。主要建設業者データベースと経営シミュレータを開発して1000社に経営指導、2万社に「建設業経営レポート」を提供中。2017年から富士教育訓練センター賛助会員として「i-Construction標準研修」や「建設リカレント研修」をスタート、各地で技術者向け研修を展開中。

▶ 16:00～17:00 | 登壇者と参加者による意見交換会

▶ 17:20～19:00 | 交流会(軽食とお飲み物をご用意します)

会場 **木材会館 7階檜ホール**(「新木場」駅より徒歩3分)
〒136-0082 東京都江東区新木場1丁目18-8 TEL: 03-5534-3111

対象 中小企業の経営者、経営後継者、経営幹部の方/定員: 180名

お問合せ (一財)建設業振興基金 経営基盤整備支援センター経営改善支援課 TEL: 03-5473-4572

お申込み 以下のURLからお申込みください

<https://www.kensetsu-kikin.or.jp/management/keieishakenshu/>

申込期日 **令和6年6月7日(金)**(定員になり次第終了)

※キャンセルされる場合、お早めのご連絡をお願いいたします/インターネットからのお申込みいただけます

お申込みは
こちらでも



CONTENTS

特集

建設事業主等に対する助成金について — 02

- 助成金活用のための共通チェックリスト
- 1.採用に関する助成金
- 2.労働環境改善のための助成金
- 3.人材育成に関する助成金

FOCUS

工業高校紹介

千葉県立市川工業高等学校

■ インタビュー：林 祐介 先生

08

PRESCRIPTION

日本経済の動向

- 金利上昇が財政運営の大きなリスクに

10

建設経済の動向

- 残業規制への対応困難な建設会社は4割超

11

連載 経営者のためのわかりやすい会計

- 新連載【第1回】
なぜ経営に会計が必要か

12

連載 かわいい土木【第53回】

- 高灯籠(常灯明台)
／東京都千代田区

14

お役立ち連載

建設キャリアアップシステム
を活用しよう!【第17回】

16

いつでもチェック!!

建設業
しんこうWeb

建設産業の今を伝え
未来を考える

「建設業しんこう」は
Webでも
ご覧いただけます。



しんこうWeb

検索

<https://www.shinko-web.jp/>



メルマガ登録は
コチラから!



「建設業しんこう」に関するご意見・ご要望
TEL : 03-5473-4584 (企画広報部)
MAIL : kikaku@kensetsu-kikin.or.jp

印刷：日経印刷株式会社
©本誌記事の無断転載を固く禁じます。



フロンティア FRONTIER

建設の最前線へ!

PROFILE

いしだ やまと
石田 大和 さん

伊田テクノス株式会社
埼玉県出身



「現場を動かしている」という実感が喜び!」職人と一体で工事を進める期待の若手!

ときには周りや朗らかに言葉を交わしながら、工事の進捗を真剣な眼差しで見つめ、職人たちに的確に指示を出す——伊田テクノス株式会社の石田大和さんは、現場管理の担当として活躍する同社の若手の中心だ。「安全を最優先するのはもちろんですが、現場管理を担う上で大切にしているのは周りとのコミュニケーションです。建設工事は何十年、何百年と長く暮らしを支えていくものを作る仕事。多くの方と協力しなければならぬ仕事だからこそ、現場では自分から積極的に話しかけ、工事を円滑に進めていけるよう心がけています。現場で働かされているのはほとんどが年上の方ですが、皆さん温かく接してくださるので、やりづらさを感じることはないですね。また、中間検査を無事に終了後はみんなでおいしいものを食べに行くなど、次の現場までの合間を見て交流機会を設けることも現場の良い雰囲気づくりにつながっていると思います」。

高校生の時に伊田テクノスのインターンシップに参加したことが、入社へのきっかけとなった。「1週間ほどのインターンシップでしたが、堤防工事の現場などにも触れ、みんなで一つの手を掛けていく仕事の魅力を感じることができました。現場で担当してくれた方が丁寧に教えてくださいました。この会社で働いてみたい」と感じた動機の一つです。入社後はメンターの指導のもと、建設業のいろはを学んだ石田さん。専門用語を覚えることにも苦労したが、それ以上に驚いたのは、作

成すべき書類の多さだ。「工事を進めるにあたって、これほどまで必要な書類があるとは知らなくて…(笑)。発注側によって必要な書類も異なるため、それぞれに関する手順や知識、作成業務を覚えるのに苦労しました」と振り返る。

そうした中で現場経験を重ね、成長を続けてきた石田さん。特に印象として強く残っているのは、はじめて現場代理人を務めたアンダーパスの建設現場だ。「最初から最後まで関わった、これからも忘れることのない現場です。やるべきことも、新しく覚えなければいけないこともたくさんあり、臨機応変に動く場面も多かったのですが、自分が「現場を動かしている」という実感があり、やりがいを感じることができました。周りの方にもサポートやアドバイスをいただきながら進めることができ、無事に終わられたことは大きな喜びにつながりました」と笑顔を見せる。

「自分の中で重きをおいているのは、どんな仕事をするかよりも、どんな人と仕事をするかということ。そうした意味でも、今は恵まれた環境で仕事ができていると感じています。今後も周りの方に学びながらしっかりと実務経験を積んでいき、受験資格を満たすことができれば1級土木施工管理技士の資格を取得したいと思います。より大規模な構造物の建設現場にも、積極的にチャレンジしていきたいです」と抱負を語る石田さん。その活躍のフィールドは、さらに広がっていくことだろう。

Great Job!



伊田テクノス
株式会社
代表取締役社長

檜崎 亘 氏

能登半島地震を目の当たりにし、「地域の守り手」として我々建設業のあるべき姿を改めて考えさせられました。一方、4月から適用となった時間外労働の上限規制をはじめ、担い手不足、生産性向上への取組など、明るい建設業の未来に向けての課題はまだ山積しています。これまで弊社では、建設ディレクターや独自の社内研修制度など様々な取組を試行錯誤しながらも地道に進めてまいりました。今後も担い手確保や生産性向上に果敢にチャレンジすることで、魅力ある、そして地域から必要とされる企業であり続けたいと考えています。

建設人材育成優良企業表彰『国土交通大臣賞』を受賞